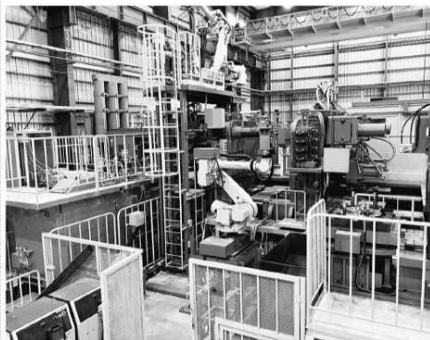


年月日	26	04	23	ページ	9	NO.	
-----	----	----	----	-----	---	-----	--

# 高炉用羽口で国内トップシェア



1650トマグネダイカストマシン。  
アルミ合金にも対応できる

## 戸畑製作所

◆会社概要

純銅製や溶接機などの純銅製を手掛けており、高炉用羽口の純銅製では国内トップシェアを誇る。純銅製物の月間生産能力は約75ト。鑄造、加工、溶接の3つの工場を構える。

鑄造工場の主な設備は3倍周波誘導炉、自動砂型処理造形設備、シヨットプレス。機械加工と溶接を行なう加工場と溶接工場はマシニングセンター、各種旋盤、フライス盤、5面加工機、プラズマ溶接機、ロボ



松本社長

ット溶接機、油圧プレスなどを所有する。

純銅製品の主な販売先は高炉、電炉、非鉄製錬。高炉3社と多くの電炉メーカー、国内の多くの銅製錬所と取引がある。いずれの純銅製品も、設備の設計に合わせて受注生産する。千葉

## 非鉄鑄物 ～伝統技術の潜在力

⑥

銅ステープ、銅パイプクーラー、各種めっき用電極のほか、加工が難しいチタン製タンクも生産。異種金属の接合や中空構造部品に対応できる拡散接合技術を保有し、翌49年に株式会社化した。

◆沿革  
1948年(昭和23年)、北九州市戸畑区で銅合金鑄造加工の専門工場として合資会社戸畑製作所を設立し、翌49年に株式会社化した。

55年に純銅鑄物の製造を開始。64年に現在の小倉南区曾根工業団地に機械・製缶部門の分工場を新設し、69年には純銅専門工場も建設。73年に本社を移転し、合資工場も集約した。

2003年、産業技術総合研究所の特許使用権を取

向けなども含めて「後は輸出を増やしていきたい」と意気込む。

高炉の脱炭素化に向けたプロセス変更により、羽口の構造が複雑化する可能性もあるとみている。そうなれば、数量は減っても高付加価値が見込める。複雑構造の鑄物への対応として、砂型用3Dプリンターを導入する計画だ。

難燃性マグネ合金は、中大型部品の量産事業を主とする。昨年2月に戸畑ターレット工作所、日伸電工、グローバルマ

# 難燃マグネで業界リード

県津市に関東営業所も設置している。

マグネウムにカルシウムを添加した難燃性マグネシウム合金も20年以上前から手掛けている。鑄造工場にマグネシウム用の電気炉と鑄造設備があり、マグネ合金のインゴットやレックト、砂型鑄物を生産。協力会社での粉末製造、自社の電極ホルダーなどを生産している。

溶接製作はサブランス、

得て難燃性マグネ合金の製造を開始。18年、3代目となる松本敏治社長が就任した。銅合金鑄物は24年に生産を終了した。

◆特色  
純銅製品は国内の高炉・電炉、非鉄製錬向けが中心。銅製物は羽口、冷却盤、ランス、スル、炉体クレーン、電極ホルダーなどを生産している。

シウムコーホレーション、佐藤商事と5社共同出資の戸畑グローバルマグネシウムコーホレーションを設立。1650トと1650トのダイカストマシンを追加導入した。

マグネダイカストの最大のターゲットは自動車部品だ。ホイールやパワートレインのケーシングで、複数の試作の引き合いが複数来ると語る。(田島 義史)

事業の多角化と規模拡大を図るべく、近年はM&Aも積極的に行っている。戸畑製作所を中核事業会社とする持ち株会社「戸畑グループ」を設立した。

松本社長は「鉄鋼向け純銅製品の輸出拡大とマグネダイカストの量産、M&Aを通じた事業の多角化と規模拡大の3つが今後の経営戦略の軸になると語る。(田島 義史)

### 【基本情報】

- ▽社長＝松本敏治
- ▽本社＝北九州市小倉南区新曾根8-21
- ▽資本金＝3500万円
- ▽従業員＝約130人
- ▽設立＝1948年
- ▽URL＝https://www.tobata-s.com